

都市再生整備計画(第4回変更)

お ば た ち よ う ほ ん ま ち ち く
小 俣 町 本 町 地 区

み え け ん い せ し
三 重 県 伊 勢 市

平 成 22 年 11 月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	三重県	市町村名	伊勢市	地区名	小俣町本町地区	面積	164 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

大目標：歴史的資源を活用したまちづくりの推進と、安全安心で防災機能の高い中心市街地の再生

- 目標1：駅周辺の道路環境の整備により、駅への円滑なアプローチを確保し、中心市街地の活性化と鉄道の利用促進を図る。
- 目標2：中心市街地につながる主要橋梁の点検など交通環境の改善により、安全で防災機能の高い中心市街地の形成を図る。
- 目標3：歴史的資源を活かし小俣らしさを創出するため、市民参画によるまちづくりを推進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 当地区は伊勢市小俣町の中心市街地に位置し、古くは伊勢参宮街道の宿場町として賑わっていた家並みや数多くの指定文化財等、歴史的資源が残る地域である。JR参宮線が敷設され、宮川駅を町の玄関口として、近隣商業地域、居住地域が拡がり、一部企業等も誘致され、工業地域等も含まれている。
- モータリゼーションの進行並びに商業施設の郊外立地化の進行等により、往時の宿場町の印象は薄れ、商店街も空洞化し、宮川駅の利用者も減少しつつある。
- また、古い宿場町であるため、狭い道路が多々あり、駅周辺の居住環境整備や道路等の整備が遅れているため、円滑な道路ネットワークの確保が望まれている。並びに本地区は、北が外城田川、南が汁谷川、東が菱川と河川に囲まれた地区となっており、中心市街地へのアクセスにおいて既設橋梁が、防災上、重要な位置づけとなっている。
- 国史跡である離宮院跡や宿場町を彷彿させる家並み等、歴史的資源の保護により小俣町らしさ(魅力)を創出し、次世代へ継承するとともに、歴史文化にふれることができる地区として市内外へのアピールが必要である。
- 伊勢市小俣町では、「歴史と人々のふれあい」をテーマにしたまちづくりを推進しており、このまちづくりの一環として歴史的資源を活用した散策ネットワーク「小俣町歴史回廊」整備計画が官民協働で策定されている。その中で、散策路の起点及び拠点となる宮川駅周辺の整備が位置づけられており、中心市街地の都市基盤の整備を早期に推進する必要がある。
- 当地区の北側には外城田川、南側には汁谷川・宮川が流れ、宮川駅の南側には緑豊かな離宮院公園が隣接して位置するなど、気軽に水と緑にふれあうことができる空間を有する。前記に示した小俣町歴史回廊整備計画の中で汁谷川堤防道路も散策路のルートに設定されている。ルート近隣の拠点施設として官民協働で整備された宮川親水公園(水辺の楽校)があり、「宮川の渡し」として歴史的価値もある。宮川は、「宮川流域ルネッサンス」として川を通じて近隣市町村と広域に整備を行う方針であり、各整備が相乗的につながることが期待されている。

課題

- 伊勢市小俣町の顔である中心市街地、かつての参宮街道の宿場町としての賑わいを取り戻し、良好な居住環境と防災に対応した安全なまちづくりが緊急の課題である。
- 入り組んだ道路構成と狭い道路により、円滑な駅へのアプローチが確保されておらず、良好な居住環境としても防災に対する安全性の確保が求められる。
 - 河川に囲まれた当地区の管理橋梁の現状把握は、災害活動時において安全な幹線ルートの確保のため、急務である。
 - 中心市街地の衰退及び歴史的資源・継承者の消失。

将来ビジョン(中長期)

- 宮川駅周辺の中心市街地を“21世紀の宿場町”として、良好な居住環境を有し、自然体験や歴史文化にふれる「産・住・文・緑」ゾーンを形成する
- 旧小俣町の“小俣町第4次小俣町総合計画後期基本計画”において4つの重点政策を掲げ、その1つとして「創造と演出のまち」プロジェクトがあり、その中で21世紀の宿場町として小俣らしさを創出し、地域の活力を高めるとしている。
 - また、同計画において、当地区を「産・住・文・緑ゾーン」の形成として用途指定や狭い道路整備により、良好な居住環境の創出、自然体験や歴史文化にふれることができるゾーンとして位置づけている。

- 『美し風起つ帰郷新都市』として、地域が有する歴史・文化を共通の財産として、新たに生まれ変わり続けることで、光り輝く地域の価値が常に生み出されていくような元気なまちづくりを目指す。
- 新市建設計画においても、新市まちづくりの施策として輝く自然を生かすまち、新生「お伊勢さん」活力あふれるまち等をテーマに、森林の保全や河川・海岸環境の整備、自然環境の保護・活用、安心・安全な社会の推進、地域特性を生かした土地利用計画、道路・港湾等の整備、公園・緑地の整備、都市景観の形成が新市においても位置づけられている。

目標を定量化する指標

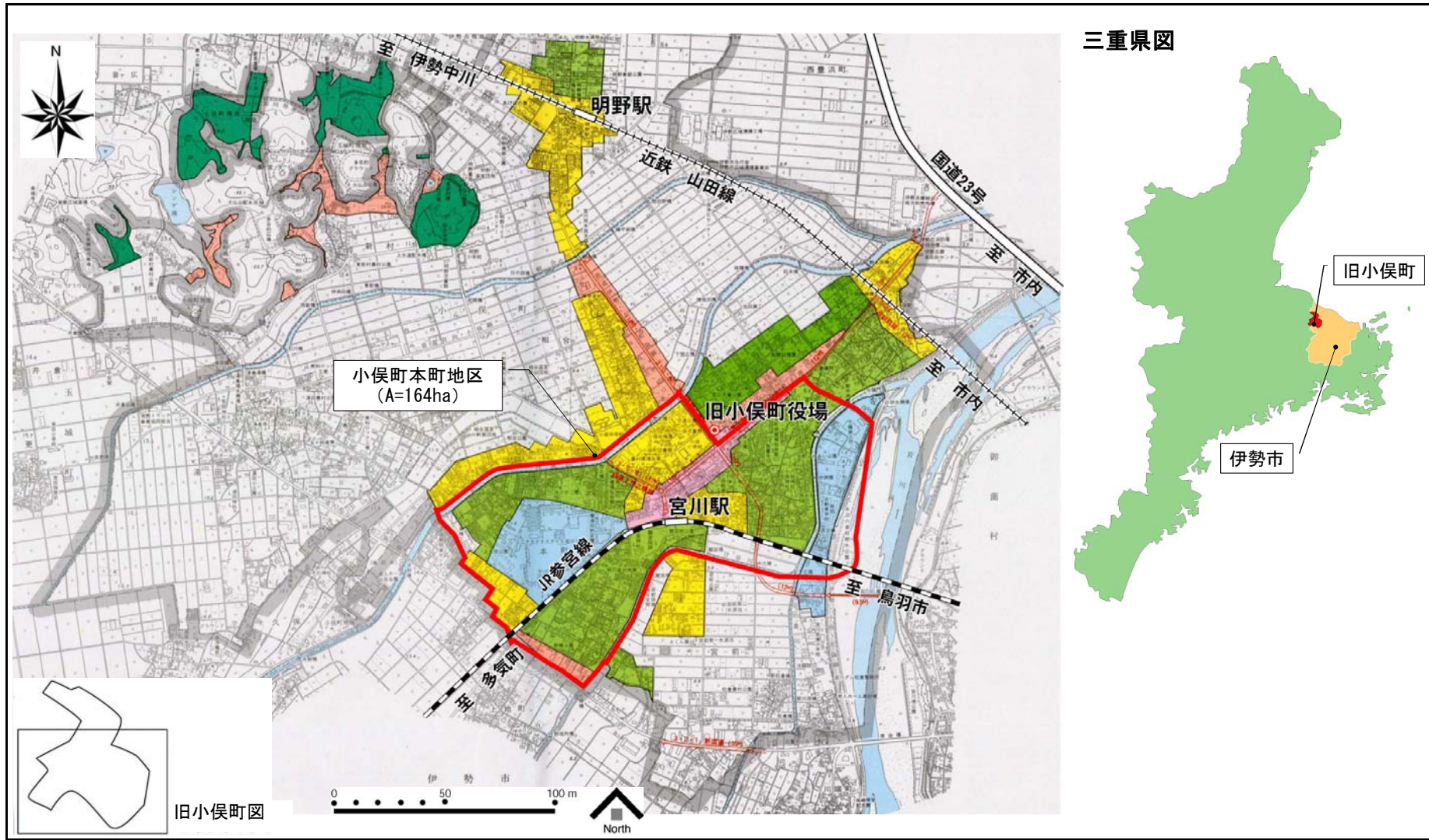
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	目標年度	
				基準年度	目標年度	目標年度	
1.宮川駅乗車人数減少率	%	JR参宮線宮川駅の1日当りの乗車人数の減少率(H10→H15)の減少傾向を(H18→H22)は止めをかける	道路環境等の整備により、駅への円滑なアクセス改善を図り、減少傾向にある公共交通機関の利用促進を目指す。	△ 8	0	平成15年度	平成22年度
2.狭い道路率	%	当地区における狭い道路(W=5.5m以下)率 交通環境の改善を目標とするため狭い道路の定義を普通車輦が対面通行できる2.75×2=5.5mとした	交通環境・防災機能・安全性を高めるため、狭い道路率の減少を目指す。	37.4	36.9	平成15年度	平成22年度
3.離宮院公園入込客数	人/年	離宮院公園の年間利用者数(人)	駅周辺の道路環境の改善やサイン整備などにより、公園利用者数の増加を目指す。	2,970	3,100	平成16年度	平成22年度
4.公道等の未改良延長の減少	%	当地区内における市道認定を受けていない公道、私道で4m未満の道路延長の減少を図る。 地区内において緊急車両等の乗り入れがスムーズにおこなえるように4m以上の道路を改良済み延長とする。	計画地区内の狭い生活道路及び入り組んだ道路構成により、緊急車両等の進入できない交通環境を改善することで、非常時にも安心できる安全安心なまちづくりを目指す。	100	99	平成18年度	平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(中心市街地の活性化と鉄道の利用促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅から広域幹線道路に接続する道路整備、狭隘道路の拡幅により、交通環境の向上を図り郊外及び町外から本地区へのアクセスを円滑にし、鉄道の利用促進を図る。 ・交通便利性の向上・鉄道利用者の促進により中心市街地の活性化につなげる。 ・歩行者系サインの設置等、高質な道路空間の演出により、歴史回廊整備計画と連携した宿場町としての商店街の活性化を図る。 ・中心市街地及び商店街の活性化を市民参画により進めるため、ウォーキングツアー等を開催する。 	<p>道路整備事業(下卯起宮川駅野依橋線、市道小俣12号線、市道小俣1号線) 高質空間形成施設事業(サイン設置) 事業活用調査(まちづくり計画策定) まちづくり活動推進事業(“本町再発見活動事業”)</p>
<p>整備方針2(安全で防災機能の高い中心市街地の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災上主要な橋梁の点検を行うことにより、管理橋梁の現状を把握し、橋梁補修及び補強等の安全対策の必要性を早期認識し、災害時に備える。 ・交通環境の整備により、安全で防災機能の高い居住空間を創出する。 ・防災に対する意識の啓発を図るため、市民参画による危険箇所の点検等を行なう。 	<p>道路整備事業(下卯起宮川駅野依橋線、市道小俣12号線、市道小俣1号線) 地域創造支援事業(橋梁点検) 事業活用調査(まちづくり計画策定) まちづくり活動推進事業(“本町再発見活動事業”) 地域創造支援事業(公道改良)</p>
<p>整備方針3(歴史的資源を活かした市民参画によるまちづくりの推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散策(歴史回廊)及び商店街等への誘導の起点となる駅前及び駅周辺を高質空間として整備する。歴史的資源等を紹介する歩行者系サインの設置により、駅周辺のイメージアップ及び町内外への歴史的資源のアピールを行う。 ・住民意向を反映した小俣らしいまちづくりを推進していくため、市民参画のきっかけづくりを行なう。市民により小俣の魅力(歴史的資源等)を再発見し、活かし方や問題点を認識することにより、継続的な魅力づくりやまちづくりを推進するための人材づくりにつなげる。 	<p>高質空間形成施設事業(サイン設置) 事業活用調査(まちづくり計画策定) まちづくり活動推進事業(“本町再発見活動事業”) 公園整備事業(離宮院公園)</p>
<p>その他</p>	
<p>○継続的なまちづくりの活動</p> <p>・小俣町本町地区は、平成14年よりまちづくり総合支援事業にて道路整備事業及び歴史回廊整備事業が行われている。歴史回廊整備事業は、官民協働にて策定し、歴史的な地域資源を踏まえ散策ルートが設定されており、その一部である汁谷川沿いの散策路が現在施工されている。尚、このルートは、宮川親水公園とつながっており、広域的な活用や地区内の充実を含め、地域住民の期待が寄せられている。散策路のH15年度完成箇所では子供達が水辺で遊ぶ姿が見られるなどの成果が得られており、これを更に発展させ、地域への関心を更に深くしてもらい、継続的なまちづくりへの市民参画を呼びかけるため、“本町再発見活動事業”を行なう。</p> <p>・又、水辺の楽校整備事業で整備された「宮川親水公園」を拠点として、「水辺の楽校推進協議会」の活動を支援し、河川の緑化の推進、緑のネットワークの形成を図り、中心市街地との連携を強化している。</p> <p>・町内で活動する「小俣町ふれあい花のある通りの会」など、四季を彩る「花いっぱい運動」のまちづくりの活動を中心市街地に引き込み、駅周辺の“花のあるまちづくり”の活動を推進する。</p> <p>○防災意識の啓発活動の実施</p> <p>・小俣町本町地区では、各自治区において年1回、消化訓練・避難訓練・炊出し訓練等を行っており、防災に対する住民意識や協働意識が高い。この活動をさらに発展させより具体的な訓練とするため、住民参加による危険箇所の確認を行なう。</p>	

都市再生整備計画の区域

小俣町本町地区(三重県伊勢市)	面積	164 ha	区域	小俣町本町地区
-----------------	----	--------	----	---------



小俣町本町地区（三重県伊勢市）整備方針概要図

目標	歴史的資源を活用したまちづくりの推進と、安全安心で防災機能の高い中心市街地の再生	代表的な指標	1. 宮川駅乗車人数減少率 (%)	△8	(H15年度)	→	0	(H22年度)
			2. 狭隘道路率 (%)	37.4	(H15年度)	→	36.9	(H22年度)
			3. 離宮院公園入込客数 (人/年)	2,970	(H16年度)	→	3,100	(H22年度)
			4. 公道等の未改良延長の減少 (%)	100	(H18年度)	→	99	(H22年度)

